UMISACHI通信
産み・生み・熟み・績み
第４号

発行　研究推進委員会
2009. 5. 14

「学習のふりかえり」におけるノート

本校では，以前から「学習の振り返り」としてのノート指導をしてきました。ただ，それが形骸化してきていたというのが正直なところでしょう。

一昨年は，理科大会があり，しばらくの間ノートそのものについての指導をとくに話題にしてこなかったのですが，今年度は，以前からの「学習の振り返り」をもう少し意識して取り上げていくことになったので，その「指導上の観点」を示してみたいと思います。

学習の振り返りのノート指導例

以下の事柄も，第 3 号に引用した池野教授の論文を参考にしたものです。

一つの追求が終わった段階や＜次＞段階ごとに「学習の振り返り」をしたいものです。単に，義務的に毎時間書かせるとかではなく，教師が明確な視点をもって（目標をもって）取り組むことが大切でしょう。あるときは，教師の授業評価を聞くものとして，あるときは子どもたちが課題をどれだけ理解しているかをみるために…というようにです。

＜振り返りノートの観点＞

①授業を通して自分なりに感じたこと

この段階では，何を書いてもいいという段階です。自分なりに感じたことですから，教科の内容ではなくて，「友だちががんばっていた」とか「自分ではノートがきれいに書けるようになった」「三角定規の使い方がわかった」でいいのです。でも「何を書いてもいい」というとかえってかけなくなる子もいますので，そんなときは，視点を与えてあげればいいでしょう。

②考えの進め方や友だちの考え方・アイディア，発言の仕方，話し合いの進め方で勉強になったところ。

ここでは，ある程度，指導者の方から「書く視点」を明確して書いてもらいます。結構高度なことなので最初は「ワークシート」を用意して練習したりする必要があるかも知れません。また，授業によっては「今日は討論が活発になったので，その視点で書いてもらおう」などと，臨機応変に対応することも必要になってくるでしょう。

③今後がんばらなければならないこと

これには 2 種類あるでしょう。一つは，学習課題についてのこと。もう一つが個人の学習姿勢についてのことです。

今までの課題に対する自分なりの理解を受けて，まだ疑問に残っていることや新たななぞについて，更に自分は，あるいは学級はどんなことをやっていかなければならないのかを考えてもらうことです。

また，グループや学級の雰囲気の中で，自分がもう少し成長するためには何が必要なのかを考えることです。

④続けてみたい問題

学んだことを受けて，今後自分が気にしながら生きていきたい内容について考えてもらいます。よくテストのうらについていますよね。あれを意識的に取り上げていこうというのです。

一応ノートについては ひとまず終わります